

知ろう！乗ろう！！ ふるさとの本山線

さ～て、皆さんご存じの小野田線・本山支線、通称「本山線」。
え…ご存じない?? (汗)

と、まあ、残念ながら、地元でも「乗ったことがない」「そもそも知らない」と利用度・知名度とも、もうちょっと頑張りたい本山線。
今回はそんな本山線についてご紹介します！

JR 西日本の本山線は、小野田線の雀田駅から長門本山駅まで全長 2.3km の短い鉄道路線で、途中駅は浜河内のみ、所要時間は片道わずか 5 分ほどです。

現在は朝 2 往復、夕方 1 往復の計 3 往復、1 両だけの電車がコトコトと走っています。

「なんでこんな線路ができたんじゃろ？」と言われたりもしますが、そのヒントは小野田線と本山線が分岐する雀田駅にあります。

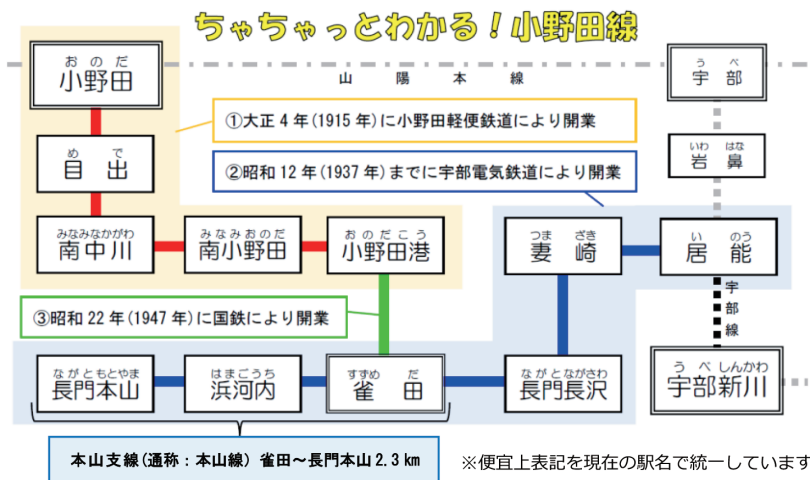
宇部方面から小野田行きの列車に乗ると、雀田駅に着くあたりからググーツ…おお、列車が大きく右に曲がっていきますよ。よく見るとホームも結構急なカーブを描いています。

一方、長門本山行きの列車では…あれれ？まっすぐなホームへスムーズに進入しました。

小野田線は、もともと「小野田～小野田港」と「居能～雀田～長門本山」という別々の路線でしたが、国有化後の昭和 22 年(1947 年)に小野田港～雀田の開通によって現在の形になったという歴史があります (右図を参照)。

つまり、雀田～長門本山 (本山線) はわざわざ作ったのではなく、2 つの路線が一つに合体した際に、昔からあった路線の一部がハミ出しちゃったものなんです。

雀田駅で、メインであるはずの小野田方面への線路が支線である本山線よりも大きくカーブして窮屈な感じになっているのは、そっちの線路を後からくっつけた名残なのです。



さて、本山線を含む居能～雀田～長門本山は小野田地域で産出される石炭を宇部地域の工場や港湾へ運ぶことを目的として、昭和12年(1937年)までに開業しました。

その後、昭和22年(1947年)の小野田線全通時に、居能～雀田～小野田港～小野田がメインルートとなり、同時に雀田～長門本山を往復するという本山線のスタイルが確立しました。

当時はまだまだ自動車が普及しておらず、例えば昭和25年(1950年)の本山線では1日に20往復(現在の約7倍!)の列車が運転され、多くの通勤・通学客で賑わっていました。

昭和38年(1963年)の本山炭鉱閉山に伴い貨物取扱が廃止された後も本山線は地域住民の重要な足として活躍を続け、モータリゼーションや過疎化の影響を受けながらも、国鉄民営化直後の昭和62年(1987年)においても、なお1日に12往復が運転されていました。

それから40年近くを経て1日3往復まで減便された現在、主な利用客は地元の学生さん数人…しかしながら休日ともなると旅行者らしき姿もよく見かけるのです。その理由とは??

○その1：走っている車両が珍しい！

ご記憶の方も多いかと思いますが、平成13年（2001年）まで茶色い電車=40系が走っており「旧型国電最後の聖地」として全国の鉄道ファンの関心を集めていました。

現在の123系（右写真）も小野田・宇部地域だけに残る貴重な車両で、この車両を目的にやってくる方が後を絶ちません。



○その2：乗りつぶしの難易度が高い！

また、運転本数が極端に少ない本山線は、鉄道に乗って楽しむ、いわゆる「乗りテツ」の方には難易度が高い（＝なかなか乗ることができない）路線として知られています。

普通列車が乗り放題となる「青春18きっぷ」の利用期間中は、本山線に乗るために数日をかけて遠方から訪れる熱心なファンも少なくないのです！

…いかがですか？少しディープな話題ですが、地元でもあまり知られていないこんな理由で熱い注目を浴びていると思うと、本山線がちょっと神々しい姿（笑）に見えてきませんか？

地方のローカル線を取り巻く環境は一層厳しさを増していますが、鉄道には鉄道ならではの特徴や魅力があります。地域とともに歩んできた本山線について、ぜひ皆さんにも公共交通としての必要性や観光資源としての可能性など、幅広い視野で一度じっくり考えてみていただければ幸いです。

本山線の時刻表（令和5年10月現在）

下 り	宇部新川 発	0639	—	—
	雀 田 発	0657	0722	1812
	浜 河 内 発	0701	0725	1815
	着	0703	0728	1817
	長門本山 発	0709	0735	1837
上 り	浜 河 内 発	0711	0738	1839
	雀 田 着	0715	0741	1843
	宇部新川 着	—	0806	—

…などと最後に少しお堅いことを書いていたりしましたが本山線に少しでも興味が湧いてしまったそのあなた！

まずは一度、実際に本山線に乗ってみてください。

車窓を流れる風景をぼんやり眺めながら過ごす数分間は、きっといつもとは少し違う時間になりますよ♪

（文・写真：白猫ちゃん）

白猫ちゃんの

山陽小野田の
ここが好き！

最近は昭和感溢れる「ドライブイン南国」の世界にもハマリ気味です（^^）